

## 2023 年度事業計画書

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

### 事業計画のポイント

2023 年度は、FAJ がファシリテーターズターミナルとしてありつづけるためにチャレンジを続けます。

- ・私たちが社会に対してファシリタティブに関わり、話し合いの好循環を生み出そう。
- ・20 年の歴史ある FAJ だからこそできるファシリテーションの本質の探究をします。

FAJ は「ファシリテーションの普及を通じた多様な人々が協調しあう自律分散型社会の実現」を掲げ、活動を続けてきました。2003 年に NPO 法人として発足し、今年度 20 周年を迎えます。

2022 年度は、この数年続いていた行動制限が一部緩和され、感染症対策を講じての対面での活動が増えてきました。FAJ でも 3 年ぶりにリアル会場での通常総会と全国イベント「ファシリテーション・サミット」が開催されました。コロナ禍でのオンラインを中心とした活動の中で培った、拠点や普段の活動領域の枠を越えた繋がりを新たな対面の場でも活かしながら、新たな可能性も膨らんだ 1 年だったと思います。

コロナ禍による行動制限の影響などにより、世の中が新しい生活へと変化する中、FAJ の活動が変わらず継続されているのは、ファシリテーションが世の中に必要とされるものだという再認識とともに、活動の運営を支え続ける仲間がいるからこそです。20 年間の FAJ の歴史には 3000 人以上の方が関わってきました。この機会に、FAJ に関わった仲間に感謝し声を響き合わせ互いを讃え合いましょう。そして 20 年の歴史がある NPO 法人の FAJ だからこそできるファシリテーションの普及と探究へのチャレンジと一緒に取り組みませんか。

この 20 年の活動でファシリテーションという言葉は世の中に認知されるものになりました。しかし、世の中の組織のあり方、議論や話し合いはより良いものになってきたのでしょうか。まだファシリテーションの本質が伝わっているとは言えず、私たちはさらに学び、思考し、つながり、伝えてゆく必要があるのではないのでしょうか。そのためには私たちひとりひとりが身の回り半径 5m から変えていくことこそ重要です。

新しい生活、DX など、生き方、働き方が大きく変化する中、これからの社会に求められるファシリテーションを行っていくためには、既存の考えを学びほぐし、知恵を出し合い広く境界線を超えていく必要があるのではないのでしょうか。

それぞれの目の前の課題に取り組んでいくために、あらゆる現場で豊かな話し合いが行われるために、私たちはどのように関わればいいのでしょうか。私たちが社会に対してファシリタティブに関わり、話し合いの好循環が生み出されることで人との関わりが面白く、学びが深まり、よりよい成果につながってゆくことでしょう。そして FAJ のあり方、活動の仕方などにも必要に応じて変えていきましょう。

今年は日本ファシリテーション協会設立 20 年を迎える記念すべき節目の年となります。

これまでの 20 年に感謝し、今一度ファシリテーションを通じて私たちができることは何か、そして日本ファシリテーション協会が存在する意味を、そして我々にとって必要な変化は何かを考えてみませんか。きっと私たちそれぞれが社会に対して何ができるのか、ひいては自分自身の存在意義を考えることにもつながることでしょう。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します（括弧内は担当組織を表します）。

## 1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、20年間の活動から知見を活かしつつも既存の考えを学びほぐし、ファシリテーションの本質の探究を行っていきます。

### 1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進（理事会、各支部運営委員会）

- 過去20年の探究の歴史を踏まえつつ、支部、サロンといったこれまでの活動単位の枠を越え、今一度ファシリテーションの本質を探究し、私達が社会に対してできることは何かを考えていきます。
- 協会内での研鑽にとどまらず、外部団体との定例会共催などの連携活動を通じて、社会の課題解決に取り組んでいきます。

### 2) ファシリテーションの本質を探究（理事会、イベント実行委員会）

- 『「さざなみ」から「うねり」へ ～響け！共鳴、つなげ！共感～』をコンセプトに、「ファシリテーション・サミット名古屋2023」を開催します。

## 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

歴史ある公開セミナー基礎講座を中心に、オンライン開催や実践編の開催拡大を展開していきます。

### 1) 従来の公開セミナーの継続強化（公開セミナー委員会）

- ファシリテーションの普及のため、状況を踏まえながら、コロナ感染症対策版、従来版ファシリテーション基礎講座を全国各地で開催します。アフターミーティングは継続してオンラインにて開催します。
- 開催時の判断フローをもとに、状況に応じて安心して受講できる運営を継続します。
- 質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増員を目指し、講師トライアルの挑戦者を増やしていきます。併せて講師のレベルアップ、セミナーコンテンツの改良も継続します。

### 2) 公開セミナーの新たな展開の検討（公開セミナー委員会）

- オンライン開催の基礎講座は運営体制の磨き上げを図りつつ、3会場6クラスで開催します。
- 公開講座（実践編）は開催を拡大し、5拠点 6クラスで開催します。
- 公開講座（特別編）は2回実施したパイロットをふまえ、上期に今後の開催の方向性を検討する予定です。

## 3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、誠実に向き合い、ファシリテーションにとどまらない支援を行います。

### 1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実（ファシリテーションサポート委員会）

- 外部からの問い合わせに対しては、引き続きよろず相談（丁寧なヒアリング）に注力していきます。また、新たな委員およびMF・SFの拡充にも取り組みます。
- 多様な社会課題に対して、FAJならではの支援のあり方を追究していきます。また、委員のコーディネート力を高めるため、情報共有会や勉強会などを行います。
- FAJ内への情報発信として、委員会活動のHPへの掲載や報告会などを開催します。また、各拠点との連携を推進し、定例会へのプログラム提供などの企画を検討します。

### 2) 災害復興、防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援（災害復興委員会）

- 災害復興・防災・減災の分野でファシリテーションを活用した支援として、災害発生地域にお

ける緊急期および復興期での会議支援や、復興期でのカフェ・サロン等を開催します。

- 災害復興・防災活動における話し合い支援の人材育成として、板書ボランティア勉強会や、実践者養成講座を開催します。
- 災害復興や防災活動への関心を高めるため、支部・サロン等の拠点でのワークショップを行ったり、FAJ外ではJVOADフォーラム等に参加し、分科会を担当します。

#### 4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では、各種イベントや関連団体との交流を通じて、FAJ 内外のつながりをさらに深めます。

##### 1) 地域イベントを開催（各支部運営委員会、地域イベント実行委員会）

- 各支部におけるイベントの開催により、地域に根差した交流を深めます。さらに地域を跨いだイベントも開催することで、より開かれた交流を図りファシリテーションの普及と探究を一層促進します。

##### 2) 国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化

（グローバルファシリテーション推進委員会）

- FAJ内で活性化しているグローバルファシリテーションへの取組みを支援する活動を引き続き強化します。
- 多様な文化・言語を超えたつながりを楽しめる環境づくりを目指します。
- 各支部や協働促進プログラムとの連携により、新たな視点で交流・親睦活動に貢献します。

##### 3) 他団体との連携強化（理事会、各支部運営委員会）

- IAFをはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、パートナーとして協働を進めます。
- 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ外部のファシリテーターとの連携を深めます。

#### 5 その他事業

FAJ20年の歴史を振り返り、新しい未来に向けて既存の境界線を越えていく一步を踏み出します。

##### 1) 共通の目的を有する会員・各種団体との価値創出（協働促進プログラム）

- 会員の「自分起点」を軸とする、会員同士・会員と他団体、地域・社会との協働の機会創出に向けて、今年度も試行プロジェクトを継続実施します。プログラムの仕組み整備やマネジメントオフィス活動の充実化をさらに進めます。年度内にプログラムの検証を行い、次年度の正式な活動開始を目指します。

##### 2) 20周年をきっかけとした取り組み

- 20周年にあたり「FAJの今の活動を伝える小冊子」を作成します。
- 2022年1月の拡大理事会で生まれた新たなアイデアの実現に取り組んでいきます。

#### 6 広報・コミュニケーション活動

FAJが活動してきたこの20年を振り返り、FAJの価値を伝える情報発信の強化を目指します。

##### 1) FAJ内への情報発信の強化（理事会、広報委員会）

- 会員やフェローの声を発信するなど、ニューズレターコンテンツを充実させていきます。また、積極的に動画を取り入れるなど、HPの構成や内容を充実させます。

- 昨年度から開始した広報委員会主催による文章力講座の継続開催を検討します。

## 2) FAJ 外への情報発信の強化（広報委員会）

- FAJ外に向けて積極的な広報活動について検討・実施します。そのために、動画コンテンツ（ファシリテーション実技や、アイスブレイクなど）の制作を検討します。読書カフェなど広報委員会主催の企画に参加した非会員に向けてのFAJの情報発信を検討強化します。

## 7 ミッション及び組織運営に関わる活動

ファシリテーターズターミナルとしてありつづけるために、持続可能な取り組みとして、今の組織構造を客観的に捉えて組織を考え直します。

### 1) 組織のあり方の検討（理事会、各拠点、事務局）

- 新たに作成したビジョンステートメントを、作成プロセスで得られた会員の想いと共に伝える活動を行います。
- FAJの現状の課題を客観的に明らかにし、組織構造からの見直しを外部ファシリテーションの支援も受け、進めていきます。
- FAJの変化の象徴としてロゴの変更を検討します。
- 公益に資する活動のみをFAJが担い、その他の活動は別団体を立ち上げ活動することを検討します。

### 2) 運営のやり方の検討（理事会、各拠点、事務局）

- 会員減少、活動縮小などによる収入減少、組織の継続的な維持のための管理コストの増加から来る収支構造の悪化への対策を検討します。
- 各拠点が組織全体を意識した活動にするために、「拡大理事会」、20周年を契機にした「スタッフ会議」などのコミュニケーションの場で、組織の問題を共有し、共に組織全体を意識した拠点活動を考えていきます。
- 会計業務を着実に運用していくために、業務改善をさらに推し進めます。

### 3) 拠点運営のサポートの充実とデジタル化の推進（デジタル推進委員会）

- データベースの整理と活用に向けた検証を実施します。運用の効率化をめざし、ツール導入に向けた検証を実施します。定例会レポート等のデータベース整理、活用に向けた検証を実施します。
- 引き続き各拠点のデジタル化の支援を行い、組織横断で入り、連携を推し進めます。

### 4) 各種制度改正への対応（理事会、事務局）

- FAJとしての活動を維持・向上させるために、NPO法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

### ＜FAJ ビジョン 4.0＞

- わくわくした気持ちを持ち寄りつながることで、多彩な志の実現に活かす場ができている
- 違うとちがうが響き合い、互いをたたえあっている
- あらゆる場でしなやかにふるまい、出番をつくっている
- 豊かな話し合いの好循環が広がり、人との関係を楽しんでいる

### ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・